キラリ輝いてます！

ジャズへの想い、夢弦大！

奥田　弦くん　（泉野小学校）

ステージで演奏する弦くん

9歳のジャズピアニスト

閑静な住宅地から、軽やかなジャズピアノのメロディが流れてきた。弾いていたのは9歳の男の子、奥田弦くんである。弦くんは、学校から帰ると毎日3時間以上、ピアノにむかう。「コンサートの前は、8時間くらい弾いているんですよ」と母・輝子さんは言う。木登りや一輪車が好きという弦くん。小学3年生でありながら、実は、ジャズピアニストでもある。2009年に新聞で紹介されてから、ステージ出演の依頼がたくさん来るようになった。現在は、大人の演奏家たちと一緒にセッションをしたり、年に7回以上コンサートに呼ばれたりするなど活躍中だ。

ピアノとの出会い

弦くんとピアノとの出会いは、3歳のころ。家にあったおもちゃのピアノで、『チューリップ』を弾いたことが始まりだった。音楽好きの父・孝さんの影響で、クラシックやジャズのCDを聴くのが好きだったこともあり、幼稚園の年中くらいからはジャズを弾くようになった。ジャズの魅力を尋ねると、「アレンジできるところ」と即答だ。輝子さんは、「弦は楽譜どおりに演奏することが苦手なんです。ショパンの曲だって、自由にアレンジして、曲の続きを作りますよ」と笑顔で語る。昨年9月に開かれたジャズのコンサートでは、一度も弾いたことがなかった連弾を、ぶっつけ本番でやってのけてしまった。

弦という名前をつけたのは、孝さん。「でも、まさかこんなに弾くようになるとは誰も思いませんでした」と輝子さんは言う。

継続は力なり!?

「グランドピアノがほしいんだ」。なんと弦くん、幼稚園のころからずっと貯金を続けている。輝子さんに言わせると、弦くんは「自分で決めたことは曲げない」ところがあるという。そんな弦くんはピアノ演奏ばかりでなく、曲づくりも続けている。モーツアルトが5歳で作曲を始めたことを知り、「じゃあ、僕も！」と作曲を開始。これまでに、数え切れないくらいたくさんの曲を作った。幼稚園のときから書き続けた五線譜のノートは何冊にもなった。ノートには、可愛らしい音記号や音符がびっしりと並ぶ。どのような時に曲を思いつくのか尋ねてみると、「いつでも、すぐに思いつく」とのこと。「ありんこ」や「冷蔵庫」といった身近なものからイメージを膨らませて曲を作ったこともある。

人と比べない

「将来の夢は、自分で作った曲を演奏できるピアニストになること。ジャズピアニストのオスカーピーターソンみたいになりたい」と元気よく話す弦くん。普段はわざと変な顔をしてみせて、周囲を笑わせたりもする。だが、ひとたびピアノの前に向かうと、さながらプロのような顔つきになる。今は、『キャラバン』という曲を特訓中。本を読んで、ジャズの理論も勉強している。

「かけっこでも、コンクールでも、人と比べることがない。勝ち負けよりも、自分の演奏が自分のなかでどうだったのかを大切にしているみたいです。マンガも、バトルが出てくるものは読みません」と輝子さん。その横で、「次があるしね。小さいことで立ち止まっていたら、次に進まないもん」と弦くんは笑った。

やりたいことはたくさんあるし、思いきり遊びたいけれど、今はピアノに全力をかけてみたい。鍵盤の上を駆ける小さな手から、今度はどんなリズムやメロディが生まれるか、とても楽しみだ。

奥田　弦くん